

# 令和7年度 第6回学校運営協議会議事録

日 時	令和8年1月26日(月) 13:55～15:00
開催場所	下野市立南河内第二中学校 会議室
参加者	<p>〔学校運協議会委員〕</p> <p>おおもり ゆきこ こすぎ まりこ こだま かずみ ちかざわ ゆきお はやし こういち          大森 由貴子 小杉 満理子 兒玉 和実 近澤 幸雄 林 宏一</p> <p>まわけ よしはる あきやま たかこ かさの やすお          真分 喜治 秋山 貴子 笠野 安雄</p> <p>〔地域学校協働活動推進員〕</p> <p>つぼやま ひとし えびはら ただし          坪山 仁 海老原 忠</p> <p>〔事務局〕</p> <p>なかざと あつし          中里 篤</p> <p style="text-align: right;">(11名)</p>
議 題	<p>1 学校長あいさつ</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 協議</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 学校の教育活動等の評価(学校評価)について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 情報交換</p>
議 事 教 頭	<p>3 協議</p> <p>(1) 学校の教育活動等の評価(学校評価)について</p> <p>○生徒アンケートに対する考察</p> <p>全体的には27項目中、A評価「そう思う」とB評価「やや思う」を合わせた肯定的評価(以下、肯定的評価)が90%を上回る項目は19項目で昨年度より2項目増えた。全項目の平均としては、89.4%(昨年度から+1.4%)の肯定的な回答を得た。A評価のみに着目すると60%を上回る項目は16項目で、昨年度より1項目増えた。また、過去3年間の肯定的評価を比較すると、令和7年度は、16項目で最高の値を示した。</p> <p>肯定的評価を項目別に見ると、「1 学校生活が充実している 98.7%」「4 友達の良さを認め協力して学習に取り組んでいる 97.8%」「6 思いやりをもって生活している 95.6%」「10 友達と仲良く生活している 99.6%」「17 行事に積極的に取り組んでいる 97.4%」「21 学習や生活の状況に応じた評価をされている 94.7%」「22 いじめのない学校になるよう心がけている 98.2%」と、いずれの項目も昨年度同様高い値を示した。これは、生徒が生徒同士、また対教師ともに良好な人間関係を築き、心理的に安定した状態で学校生活を送れていることの表れといえる。</p> <p>学習に関しては、「2 授業の内容がよく分かる 93.8%」「4 友達の良さを認め協</p>

力して学習に取り組んでいる 97.8%」と高い値を示している反面、「3 計画的に家庭で学習している 62.6%」の値は、過去3年間で1番低い。通塾率が比較的高い地域であり、放課後の学習は塾が主となる生徒が多いが、学習内容の定着化のためには、復習を中心とした日々の家庭学習は大切である。その意義を理解させながら、家庭学習の習慣化を図っていききたい。

また、年々肯定的評価が下がっている項目として、「9 伝統文化や、音楽、美術、演劇等の文化芸術に触れる機会がある 66.1%」「13 学校や家で本を読んでいる 58.0%」が挙げられる。この2つの項目に関しては、情報化の急速な進展等による社会情勢の変化も大きな影響を与えていると思われる。本校では、図書委員会の活動や司書教諭、図書支援員を中心とした啓発活動が活発に行われている。今後も継続して読書活動の推進に力を入れていくとともに、授業の中で良書を紹介したり、各教科との連携を図ったりして興味関心を高めていきたい。また、文化芸術に触れる機会も増やせるよう計画を立てていきたい。

学年ごとに見ると、学年間の比較で大きな差が見られるのが、「3 計画的に家庭で学習している」である。3年生は肯定的評価が 84.0%と、1年生(54.1%)、2年生(47.2%)より30%以上高かった。また、「18 自分の将来の職業や進路についてよく考えている」も、3年生は91.4%と、1年生(58.1%)、2年生(68.1%)よりかなり高い値を示した。毎年同様の結果ではあるが、段階的に肯定的評価が上がってきているのは、学年に応じて適切な進路指導を行ってきた結果でもある。今後も生徒自身が進路選択できるよう、学年の段階に合ったキャリア教育の充実を図っていききたい。

A評価の「そう思う」のみに着目すると、3年生は24項目で1・2年生を上回っている。最上級生としての自覚を持ち、授業や学校行事など学校生活全般にわたって意欲的に取り組む、3年生の姿が浮かび上がってくる。

#### ○保護者アンケートに対する考察

全体的には27項目中、肯定的評価が80%を上回る項目は17項目で、昨年度より1項目増えた。70%に満たない項目は6項目で昨年度より1項目減った。全項目の平均としては、81.6%（昨年度から-1.9%）の肯定的な回答を得ることができた。

その中で、A評価「そう思う」のみに着目すると、27項目中19項目で過去3年間で1番高い値を示した。はっきりと「そう思う」と回答する保護者の割合は、年々増加傾向にある。

また、保護者には、生徒の普段の姿や対話によって判断していただくことになるので、回答しにくい項目もあると思われる。アンケートの前文には、お子さんの姿を通して評価していただくことについて、ご理解いただくよう、今年度も一文添えて実施した。保護者のE評価「判断できない」の選択率は3.8%で、昨年度の4.2%に比べ、

やや減少した。

項目別に見ると肯定的評価が90%を上回る項目は10項目で、昨年度から1項目増えた。そのうち「6 思いやりをもって生活している」「11 登校時刻やきまりを守っている」「12 係活動や清掃に熱心に取り組んでいる」「16 部活動に前向きに取り組んでいる」「17 行事に熱心に取り組んでいる」「22 いじめのない学校になるよう心がけている」「25 学校は必要な情報提供を行っている」の7項目で過去3か年で最高の値を示した。このことから、子どもたちは思いやりをもち、ルールを守って学校生活を送っていると感じている保護者が多いことが分かる。また、「14 本校職員・スクールカウンセラーは、相談事や悩み事について、適切に対応している」の肯定的評価の割合が昨年度の57.2%から67.1%へ急激に増加している。「23 お子さんは先生方とうまくコミュニケーションがとれている」の割合も84.8%から87.0%に増加しており、ほとんどの保護者が生徒と教職員のかかわりについても肯定的な評価を示している。

また、「25 学校は必要な情報提供を行っている」は、一昨年より7.5%増えた昨年度(96.7%)をさらに上回り、97.8%の高い値を示した。各種たよりや保護者宛通知のメール配信が定着し、必要な情報が確実に保護者に伝わっていることが分かる。

一方、肯定的評価が60%を下回る項目は、「3 計画的に家庭学習に取り組んでいる 55.4%」「5 振り返りをもとに学習に取り組んでいる 55.4%」「9 伝統文化や、音楽、美術、演劇等の文化芸術に触れる機会がある 57.1%」「13 学校や家で本を読んでいる 49.8%」の4つである。この4つの項目は、生徒のアンケートでも低い値を示しており、課題に対する生徒の自覚と保護者の認識は、ほぼ一致している。

アンケートの最後に、自由記述の項目を設けたところ、24名の保護者の方から貴重な意見をいただいた。そのうち4名の方は、タブレットの使用についての意見であった。タブレットの使用に関する生徒の実態を把握し、情報社会に適応した情報活用能力を身に付けさせるとともに、情報モラルに関する指導にも力を入れていきたい。

#### ○学校評価のまとめ

今年度の学校評価の回答率は、生徒94.2%、保護者95.9%であった。タブレット端末からの回答は定着してきたが、未回答率も少なくない。来年度は、より回答しやすい実施方法を検討するとともに、学校評価の重要性について生徒、保護者に理解を求め、回答率の上昇につなげたい。

評価項目は27項目で、そのうちの13項目は、二中学区の小学校と共通の評価項目で実施した。経年変化を見るために、例年と同じ内容の評価項目とした。また、「教職員」「生徒」「保護者」三者のそれぞれの評価の内容を項目ごとに揃えたことで、比較がしやすく、それぞれのとらえ方の違いを知ることができた。

	<p>肯定的評価の割合は、保護者よりも教職員や生徒の方が高い。教職員や生徒の質問項目は、「教職員は…」 「私は…」 という自己評価であるのに対し、保護者の質問項目は、「お子さんは…」 で始まる他者評価である。保護者の肯定的評価が低いということは、別の面から見れば、保護者の期待値が生徒の自己評価よりも高い結果ともいえる。</p> <p>学校評価の目的は、客観的な視点を取り入れることで、学校の強みと改善点を見つけ出し、教育の質を高めることにある。今後も保護者・学校運営協議会委員の方々のご意見を真摯に受け止め、地域に根ざした本校ならではの教育活動を展開できるように、工夫改善を図っていきたい。</p>
児玉	アンケート項目はどうやって決めているのか。
教頭	小学校と中学校で揃えている項目もある。それ以外は各学校で考えている。
児玉	他の学校と比較するような相対的評価ができないのか。結果がいいのか、悪いのかの判断が難しい。
校長	他の中学校とは別の内容で、同じ中学校区で揃えている。
児玉	数値だけだと、どこまで上がればいいのかの判断が難しい。年度当初に出しているパワーアップアクションプランに合わせて項目が合っているといいのではないか。学校がやろうとしていることが合致する。足りない部分の項目を増やすのはどうか。
校長	何年か前に項目を減らしているの。
小杉	回答しやすい表現に変えていくというのは必要かと思う。
近澤	大人と生徒の差がないものは、指導がうまくいっている。9 伝統・文化、13 読書に関して、小学校はどうか、習慣とはどの程度なのかの実態が見えてこないのかと思う。月で何冊などの分かりやすくすると回答しやすいのかなと思う。
校長	この部分はどこの学校でも年々下がっているの課題かと思う。親は、家で漫画を読んでいるのは読書ではないと認識していることもある。読書離れは全国的な傾向である。
海老原	読書に関してはどの小学校でも低い。
大森	国語力がないと困るが、そうでないのならそんなに心配ない気がする。
小杉	漫画コミックでもいいのかなと思う。字が読めないのは困るが。
大森	漫画が読めない子もいるから、そうでないのなら問題ないと思う。
真分	私は、新聞の4コマ漫画でもいいと思う。起承転結がある。あれなら数分でも読める内容。
林	校内読書週間なども継続的にやってくれれば良いと思う。
大森	「市新聞の日」も継続的やっていると聞く。活字に慣れる取組も学校としてやってくれている。
小杉	学校としてはいろいろと機会を与えてくれている。

林	さらに今ではタブレットとかパソコン、SNS等いろいろな新しいツールがある関係で、読書に親しむ時間が少ないのは仕方ない。通塾率も高い地域だと聞く。学習に力が入ると読書の時間は自ずと減る。
小杉	学習について1つ気になった事があり、保護者は何をもって「授業内容を理解している。」と判断しているのか。
大森	自分の娘の時、毎日登校し、テストがまあまあできていると思っていたのに、評定がそうでもなかったときに、実はあまり理解できていないのかなと感じた。そう思っている保護者は少なからずいるかもしれない。
小杉	勉強は個人的な問題で本人の努力次第でなんとかなるけど、一番は人間関係を学ぶことだと思う。これは、学校という集団でしか学べないので大事にしてほしい。
教頭	これまでの話から、質問の意図が伝わっていない項目があるのかもしれないと思ったので、来年度に向けて検討していく。
	(2) 情報交換
兒玉	生成AIについて学校としてどう考えているか。
校長	使っている生徒はいると思う。
兒玉	「正解のない答えに対してどう向き合っていくか」という道具だと思っていて、正しい知識を学ぶ学校とは相いれないような気がしている。
小杉	検証して、正しいかどうかを判断する力をつける必要がある。正しい知識をもって使うことが大切である。
兒玉	AIは何なのかを理解した上で使う必要がある。
校長	学校としては使っていない。個人的に使っている生徒はいると思うが、使うように勧めたりもしていない。
教頭	地域学校協働推進委員の方から何かあれば。
坪山	地域学校協働本部の立ち上げを進めている。南河内地区はR9年度に準備し、R10年度に立ち上げになる予定で、その時にはご協力をいただきたい。